

San-iku 通信



社会福祉法人賛育会の広報誌「さんいくつうしん」

TAKE FREE

Vol. **32**
2022 SPRING

賛育会の2022年度について

社会福祉法人 賛育会
理事長 小堀 洋志



新しい年度が始まりました。新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延が始まって2年になります。この間、賛育会が、多くの方々に支えられて、患者、利用者、園児たちに寄り添うことを許されていることに感謝いたします。特に昨年度は、夫々の地域やご利用者、ご家族からの要請を受けて、賛育会病院がコロナ対応病床を設置し、陽性患者や陽性となった妊婦を受け入れました。高齢者施設は、施設におけるサービスだけでなく、訪問・在宅サービスも休むことなく継続しています。保育園も感染による休園はありましたが、感染拡大を防いで保育を継続しています。現在も刻々と感染状況が変化の中で、ご利用者、地域、行政と賛育会がニーズとサービスを共有し、皆で感染を乗り越えていることに、重ねて感謝いたします。

また、2019年度に被災した豊野事業所がコロナ禍による困難な状況下でも、事業を再開できたことは大きな喜びでした。被災で失った物もありますが、多くの方々に支えられて、地域との繋がりは確実に強くなりました。現在、賛育会では豊野事業所の被災から今日までの記録、報告書を作成していますが、豊野事業所スタッフは「まだ復興という言葉は使いたくありません。今も仮設住宅で暮らす被災者の方がいらっしゃいますから」と話します。被災当初に賛育会が掲げた「地域の復興なくして賛育会の復興もない」という言葉を忘れずに、これからも、同じ敷地内にクリニック、介護医療院、特養、老健等があるという事業所の特色を生かして地域に仕えてまいります。生まれ変わった豊野事業所の今後の働きに期待してください。

さて、2022年度の賛育会は中期3か年計画の2年目を迎えます。今年度も、賛育会は一丸となって地域の課題にもっともっと寄り添いたいと思います。

◇賛育会中期3か年計画『賛育会105周年への約束』

1. 体力づくり:時代のニーズを読み、安定した法人運営を実現します。

- (1) 組織・運営体制を見直し、法令順守の徹底と経営の改善・安定化に努める。
- (2) 賛育会病院の新病院・新施設構想を計画・実行する。

2. 知恵を育む:ご利用者や患者・ご家族と共に歩む提供する担い手を育てます。

- (1) サービスの質を高め、安全でより良いサービス提供に努める。
- (2) 事故防止、感染症対策等リスクマネジメントを強化する。
- (3) 職員の確保と育成に努める。

3. 仲間づくり:地域住民や他団体と共感による協働の輪を広げます。

- (1) 地域に仕える活動を継続する。
- (2) 地域貢献活動や奉仕活動をしている仲間と連携し、協働する。
- (3) ボランティアや寄付等の支援活動の拡大に努める。

私たちはまず何より、利用者のためにより良いサービスを目指します。ご利用者の尊厳を守り、法令順守を徹底し、安全で安心できる医療と福祉サービスを提供します。その結果が、地域に寄り添い続けるための安定した経営に繋がると考えています。

そして、担い手の確保・育成強化にも取り組みます。困難な状況の中でも、オンラインを始め、あらゆる方法・手段を駆使して、利用者のためのサービスを計画し、喜んで働ける担い手を育てます。その働きを通して、ともに働き、賛育会を応援して下さる方々の輪が広がることも期待しています。さらに、賛育会病院の将来構想と、それに基づく具体的な建て替え計画を策定します。地域のニーズと職員の声も聴きながら、婦人と子ども、高齢者と「ともに生きる」賛育会病院のあるべき姿を明らかにし、実行可能で具体的な計画を定めます。少子高齢化、感染症、自然災害や社会的環境による貧困や孤独、社会を支える制度の限界など、社会の混迷は深まるばかりです。しかし、100年前の日本社会も多くの命が様々な危機に瀕していました。その命を何とか助けたい一心で、賛育会は生まれ、今日に至ります。コロナ禍は続いています。皆が困難な状況にある今だからこそ、私たちを必要として下さい。皆様に、寄り添い、中期3か年計画に取り組みます。

2022年度の賛育会の年間聖句は、フィリピの信徒への手紙4章4節から「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい」といたしました。

主において常に喜ぶとは、どのような状況においても、神様がいつも私たちとともにいて下さることを喜ぶということです。ひとりの人間は、とても小さな存在です。しかし、その小さな存在が、支え合い、ともに生きていけば、やがて大きな実を結び、大きな喜びになるでしょう。誰かがいつも一緒に居てくれる、心を通わせてくれるということがどれほど心強いことか、コロナ禍を懸命に生きている私たちは知っています。2022年度も、皆が協力し合いながら希望をもって歩む年となることを願っています。

賛育会病院:患者とともに生きる医療

賛育会病院
院長 高本眞一



104年前の1918年に東大YMCAの先輩達が墨田区で母子達を助けたいと思い、賛育会病院が成り立ちました。キリスト教の精神の隣人愛を理想として、多くの患者さんにできるだけいい医療をしたいと考えていました。

私は50年前に東大YMCAに4年滞在して仲間とともに隣人愛という言葉も大切であることを理解して、患者のためのいい医療をする心臓外科医として、医療界の中でもそれなりに

頑張ってきました。患者のためのいい医療をするためにどうしたらよいかは多くのことがあります。患者のために役に立つ医療の質の向上を医学の中でも行うために新たな医療を立ちあげたり、若い医師の力を伸ばす努力をしたり、手術成績を向上する為にリスクを少なくする術式の開発をしました。一番こころを砕いたのは、患者と家族に手術などを含めた医療に対して十分な説明をして、生命を大切にするために関係する皆が、ともに生きる気持ちを持ち合うことでした。医師が生命のすべてを認識している訳ではありません。生命を持った患者自身が素晴らしい力を持っていることを認識して、医師と患者が同じ立場でともに生きることが大切だと感じています。

昨年4月から賛育会病院の院長となり、隣人愛の実践に取り組むために「患者とともに生きる」精神で患者のために良い医療をしようと全職員に伝えていきます。多くの職員の気持ちがその方向にさらに近づくことを望んでいます。患者さんのためによい医療をするために、「患者とともに生きる」医療を職員全員で行いたいと思います。

賛育会病院に賀藤均副院長が就任しました。

2022年4月1日より、賀藤均が副院長として就任いたしました。

小児・周産期医療のエキスパートとして、賛育会病院の診療にも携ってまいります。

就任のごあいさつ



4月1日付で賛育会病院副院長として着任しました賀藤(カトウ)と申します。「加」藤でなく「賀」藤と書きます。賀藤は広島市に少し見られる苗字です。ただ、生まれは福島県伊達郡という宮城県境の田舎です。私の卒業した小学校は既に廃校となっています。

今年の3月までは国立成育医療研究センター(NCCHD)におりました。NCCHD病院は日本最大の小児と産科の専門病院で、高度先進医療の開発と診療がミッションでした。地域医療を主務とする賛育会病院では、心新たに、病院経営・診療にあたりたいと考えております。

賛育会は病院の他に、都内では訪問看護ステーション、

賛育会病院 副院長 賀藤 均

特別養護老人ホーム、高齢者グループホームなどを運営しておりますので、これらの施設と密接に連携し、地域全体の医療に貢献できればと思います。そのためには賛育会病院自体の機能を高めなくてはなりません。Patient Centered Medicine、即ち、患者さん中心の優しく・安全で・安心の医療を懸命に行うことに徹することを病院職員の皆様と実践できるよう頑張る所存です。

前の病院では、海外との交流にも力を入れてきました。紛争後の国、発展途上国に行くことも多く、私のミッションの一つとしてきました。法人には国際交流の仕事もあると聞き、何らかの貢献をできればと願っております。また、人工知能(AI)による医療開発プロジェクトにも関わってきました。この分野は、今後数年間に、否応なしにヘルスケアの分野に導入されてきます。何か医療AI関係でありましたらご相談ください。

特集
REPORT

東海事業所70周年・はなみずきホーム30周年

これからも地域とともに歩み続けます。



建設中の東海清風園



地域活動:駄菓子「えびす屋」



新茶会にて

東海
事業所
70周年

静岡県
御前崎市・牧之原市



1979年頃の東海病院

私たち東海事業所は1952年に東海病院を開設し、賛育会が静岡での働きを創めて以来70周年を迎えました。東海清風園・相良清風園を育て、支えてくださったすべての方々へ心より感謝いたします。

これからも、イエス・キリストの生き方に基づき、社会の要請をしっかりと受けとめ、社会的に小さくされている人に寄り添いながら一つひとつの事柄について具現化を努め、「隣人愛」の実践に励んでいきたいと考えています。また、地域の多くの方々との協働の輪を強め、さらに広げ、地域の担い手を育む働きも進めていきたいと考えています。

そして、今年度もコロナをはじめとして様々な感染症への予防と対策・対応や災害及び事故防止に努めると共に、ご利用者とそのご家族や働く職員の安全と安心にも努めてまいります。



クリスマス会にて



敬老会でのご利用者と小林施設長



夏祭りのヨーヨー釣り

はなみずき
ホーム
30周年

東京都墨田区

さんいく
ハイツ
東墨田
10周年



はなみずきホームは1992年4月に墨田区が開設した最初の特別養護老人ホームで、賛育会が運営しています。今年、30周年を迎えることができました。そして都市型軽費老人ホーム「さんいくハイツ東墨田」は開設10周年を迎えます。地域の皆様や墨田区、各関係機関等ご支援下さった皆様に心から感謝いたします。

職員へ「はなみずきホーム」について問うと「優しくてチームワークがよい」と話します。私も、明るく安心できる家庭的な施設と感じています。はなみずきホームの思い出は沢山ありますが、ご利用者が楽しみにしている季節毎の行事や食事会、オープンハウス、屋上庭園から観た墨田川花火大会など心に残っています。これからも賛育会の理念であるキリスト教の「隣人愛の精神」を実践し、ご利用者が安心して生活ができ、職員が生き活きと働く事ができる施設づくり、そして地域の皆様と一緒に地域貢献活動を行っていきたく願っています。

(はなみずきホーム施設長 小林 利紀子)



賛育会フォトコンテスト



2021結果発表

賛育会では昨年度フォトコンテスト2021を開催しました。私たちは、コロナ禍にあっても、日々の生活や活動の中でたくさんの素敵な場面に会い、患者、利用者、園児たちの「いき活きの瞬間」をカメラに収めています。各施設から応募のあった32作品の中から、投票によって4作品が選ばれました。

「ゆず湯に浸かりました」
ニタ村千加さん（ゆたかの）



「やあ!こんにちは!!」
池田美紀さん（豊野清風園）



「やっとできたね演奏会!」
多羅澤朋美さん（豊野中央デイサービス）



「アツアツだ。一緒に食べるか?」
不知真由美さん（池新田デイサービス）

INFORMATION

賛育会特別募金のお願い

賛育会の各施設では「いのちの授業」や「こども食堂」をはじめ、高齢者や子どもの居場所づくり、被災地支援など60を超える地域活動を行っています。

これらの活動は多くの皆様からのご寄付によって支えられています。

災害や感染症の影響下での病院や施設の運営は、大きな困難に直面しています。活動や交流が制限される状況でも、人々とつながることを願い、あらゆる手段を用いて、賛育会は人と地域に寄り添い続けます。皆様の温かいご支援をお願いいたします。

- 募金は現金、または郵便振替でお願いいたします。
- お申し出により、募金者のお名前や募金額を非公開にすることも可能です。



「賛育会防災の日」を制定しました

賛育会は、関東大震災や狩野川台風、東日本台風など幾度かの大規模な自然災害を乗り越えてきました。2022年4月より毎月13日を「賛育会防災の日」とし、今までの被災の経験を活かし減災を考えていきます。

主要人事

《施設長等人事》

〈退職〉

2022年4月30日付

マイホーム新川施設長 羽生 隆司(定年退職)

〈異動〉

2022年4月1日付

第二清風園施設長 北川 達三 マイホーム新川副施設長とする
賛育会病院事務部長 兼 賛育会訪問看護ステーション事務長
石田 悟 第二清風園施設長とする

2022年5月1日付

マイホーム新川副施設長 北川 達三 マイホーム新川施設長とする

〈任用〉

2022年4月1日付

賀藤 均 賛育会病院副院長 兼 小児周産期統括部長とする
賛育会病院副事務部長 近藤 倫弘 賛育会病院事務部長 兼
賛育会訪問看護ステーション事務長とする

San-iku 通信

社会福祉法人賛育会の広報誌「さんいくつうしん」

San-iku通信 Vol.32 2022年 春号

編集:賛育会法人事務局

発行人:中村 基信

発行所:社会福祉法人 賛育会

印刷:(有)エースプリント (20220525-7100)

社会福祉法人 賛育会

〒130-0012 東京都墨田区太平3-17-8

URL <https://www.san-ikukai.or.jp/>

お問い合わせ

TEL:03-3622-7614

